

未来医療研究人材養成拠点形成事業
選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント
[テーマB：リサーチ・マインドを持った総合診療医の養成]

		整理番号	B - 14
申請担当大学名 (連携大学名)	名古屋市立大学 (名古屋工業大学、名古屋学院大学)計3大学		
事業名	地域と育む未来医療人「なごやかモデル」		
事業責任者	大学院医学研究科教授 早野 順一郎		
事業の概要			
<p>学生や若い人材が住民と協働しエイジング・イン・プレイス(AIP)コミュニティづくりに取り組む実践研修の場を、超高齢化の先行する名古屋市内最大のUR団地に形成し、医・薬・看護・リハビリ・工学の学部・研究科、大学病院が連携して、AIP社会の医学・医療の発展と向上を担う人材を養成する。卒前教育、初期・後期研修、大学院2コースを含む5つのプログラムを開設し、一貫した多職種連携教育を通じて、AIPに必要な地域診断、地域再活性化から、ICTによるチーム在宅医療・包括ケアシステムの構築に至る総合的な課題解決能力を持った総合診療医、コミュニティ・ヘルスケア指導者、ICT 医工学の実践的リーダーを育てる。地域にコミュニティ・ヘルスケア教育研究センターを置き、教育指導、疫学や医工連携研究の指導、地域医療人のキャリア支援を行う。これにより各地に質の高いAIP社会を形成し、後継の育成に貢献する有能な人材を輩出する。</p>			
推進委員会からの主なコメント ：優れた点等、 ：改善を要する点等			
<p>エイジング・イン・プレイス(AIP)のために多職種協働による卒前から、臨床研修、大学院にわたる一貫した連携教育である点は優れている。</p> <p>医学部以外の教育機関との連携がユニークであり、また鳴子団地という教育・研究の「場」が用意されている点も強みである。都会での高齢者医療は重要なテーマである。</p> <p>事業展開地区の地区診断が明確にできており、多職種連携や地域包括ケアの基本的理解のもとに事業が構築されている。</p> <p>実践的な教育プログラムであり、その中で総合診療医の役割・機能が実践的に身に付くものとなっている。</p> <p>教育プログラムの対象にも多様な職種が含まれていることは大変評価できる。</p> <p>名古屋地域における連携大学数を増やしていくことが望まれる。</p> <p>巨大なプロジェクトであり、管理運営体制が重要となる。</p> <p>実践的教育プログラムの完成度に比べ、本事業の趣旨であるリサーチ・マインドを持つ医師の育成の部分のプログラムをさらに充実することが望ましい。</p> <p>疫学・介入研究だけでなく、多様な研究手法を身に付けるようなプログラムも必要なのではないか。</p>			
留意事項			
<p>「コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コース」は、医学、薬学、看護の修士(前期)課程、博士(後期)課程の履修科目が同一になっているが、修士・博士等のそれぞれのレベルに応じた教育内容・評価とすること。</p>			